

# 小池都知事の東京五輪・パラリンピックを巡る反撃



小池都知事 東京五輪・パラ開催による感染拡大への影響を否定

2021年9月10日 18時01分 NHK

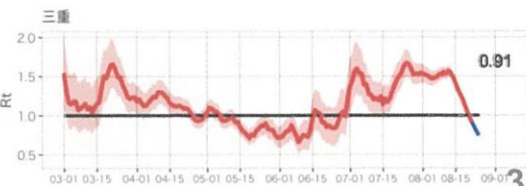
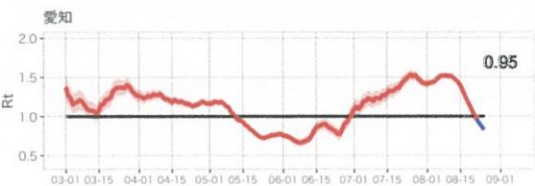
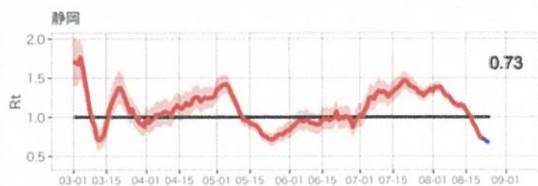
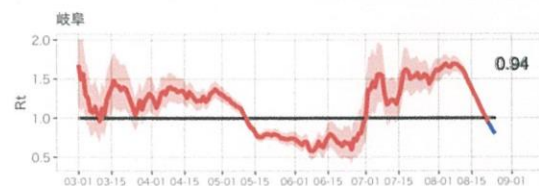
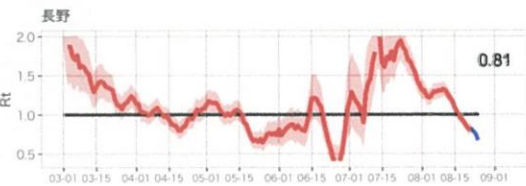
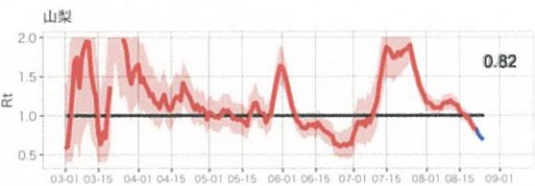
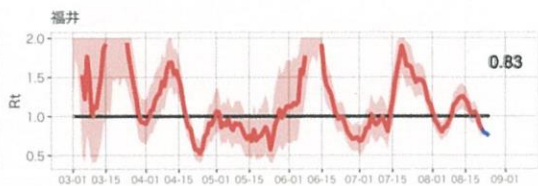
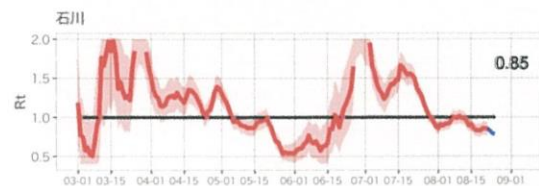
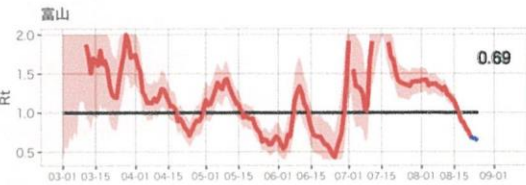
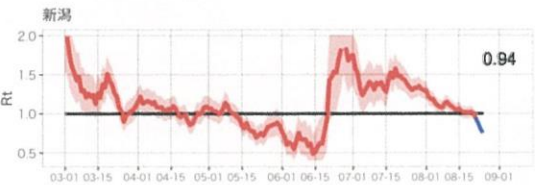
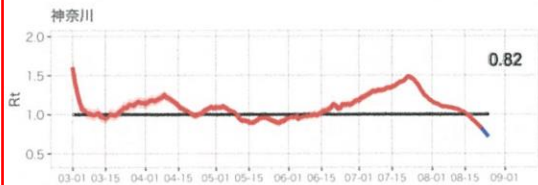
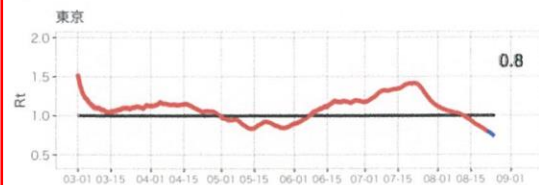
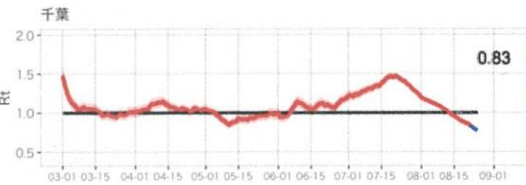
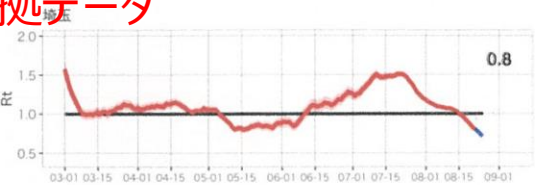
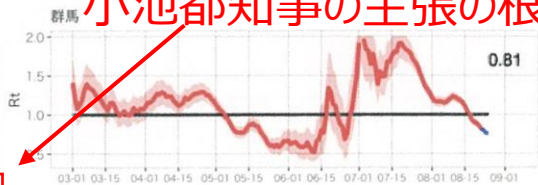
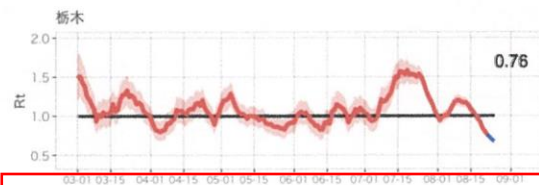
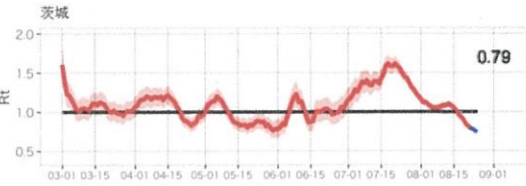
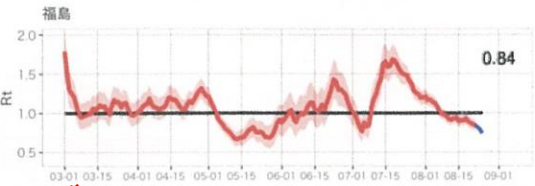
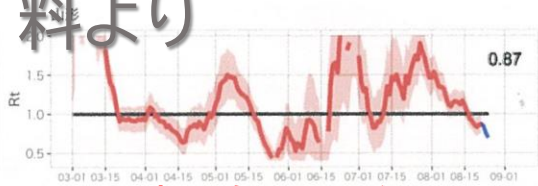
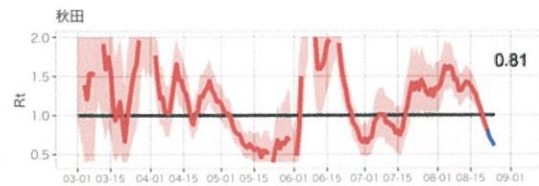
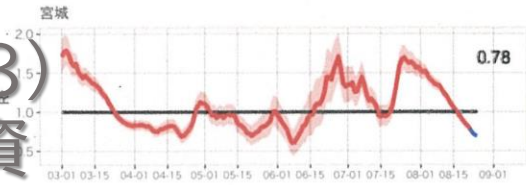
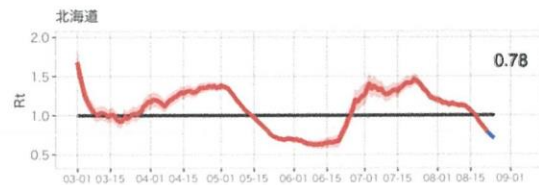
[小池都知事 東京五輪・パラ開催による感染拡大への影響を否定 | 新型コロナウイルス | NHKニュース](#)

「番頭さん」首相が退陣に追い込まれる中、しぶとい小池都知事は反撃に転じました。曰く「第46回アドバイザリーボード提出資料データによれば実効再生産数は大会期間中に下降し『大会が感染爆発につながるのではないか』という懸念は、結果としてなかった」と。そこで第103報では小池都知事の主張の真偽と意図を検討してみました。

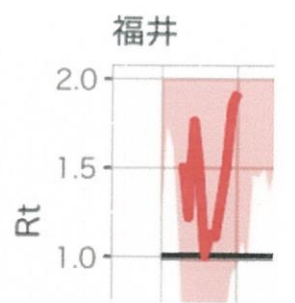
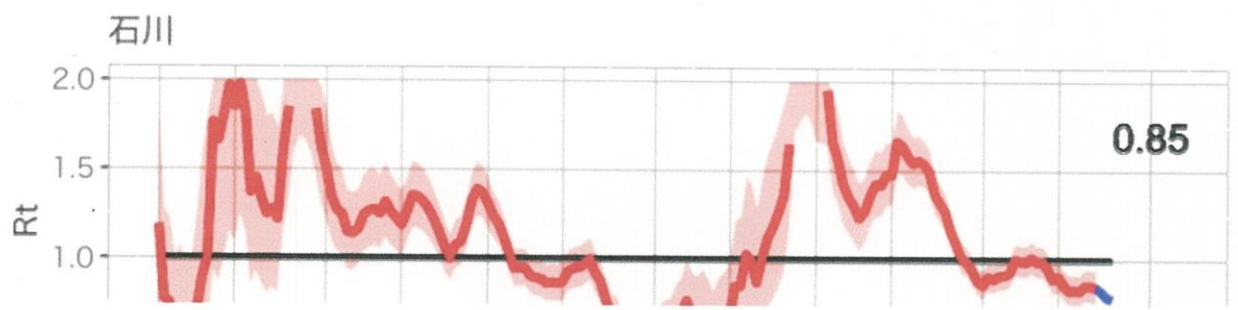
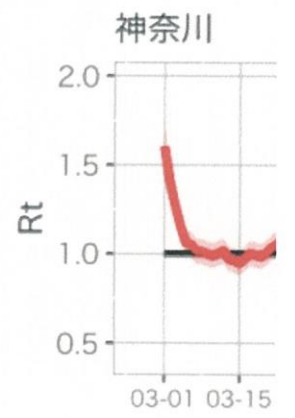
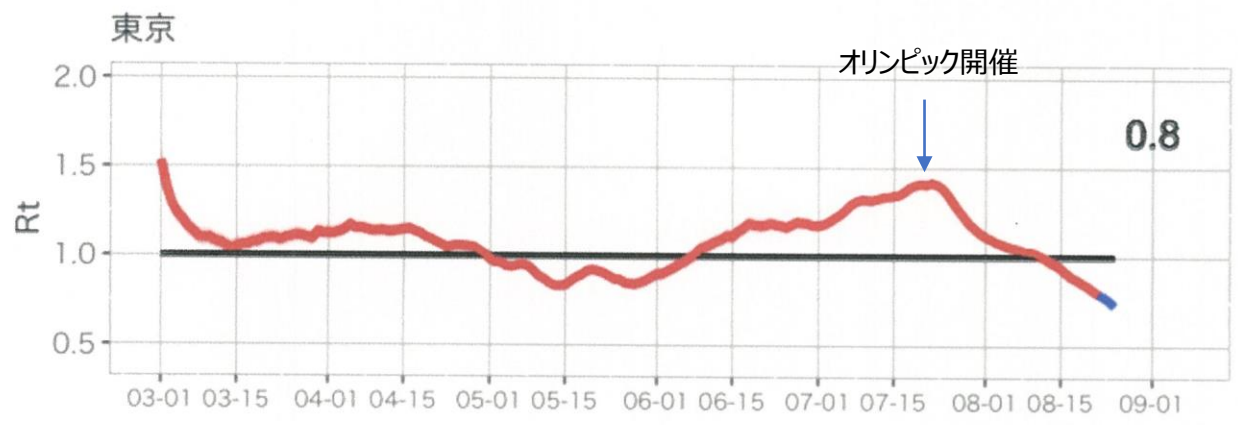
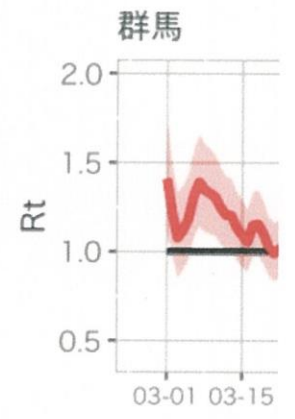
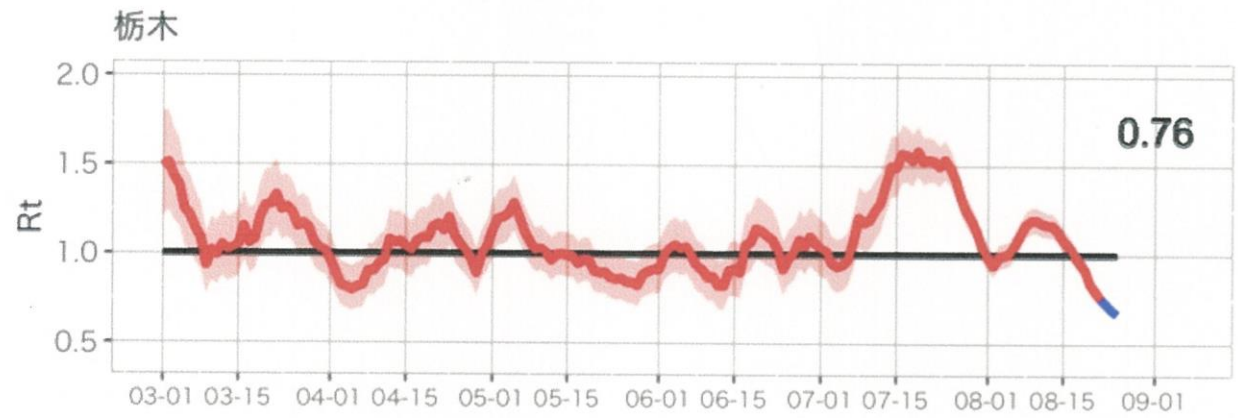
# 第46回アドバイザリボード(2021.9.8)

## 国立感染症研究所 鈴木基先生の提出資料より

小池都知事の主張の根拠データ



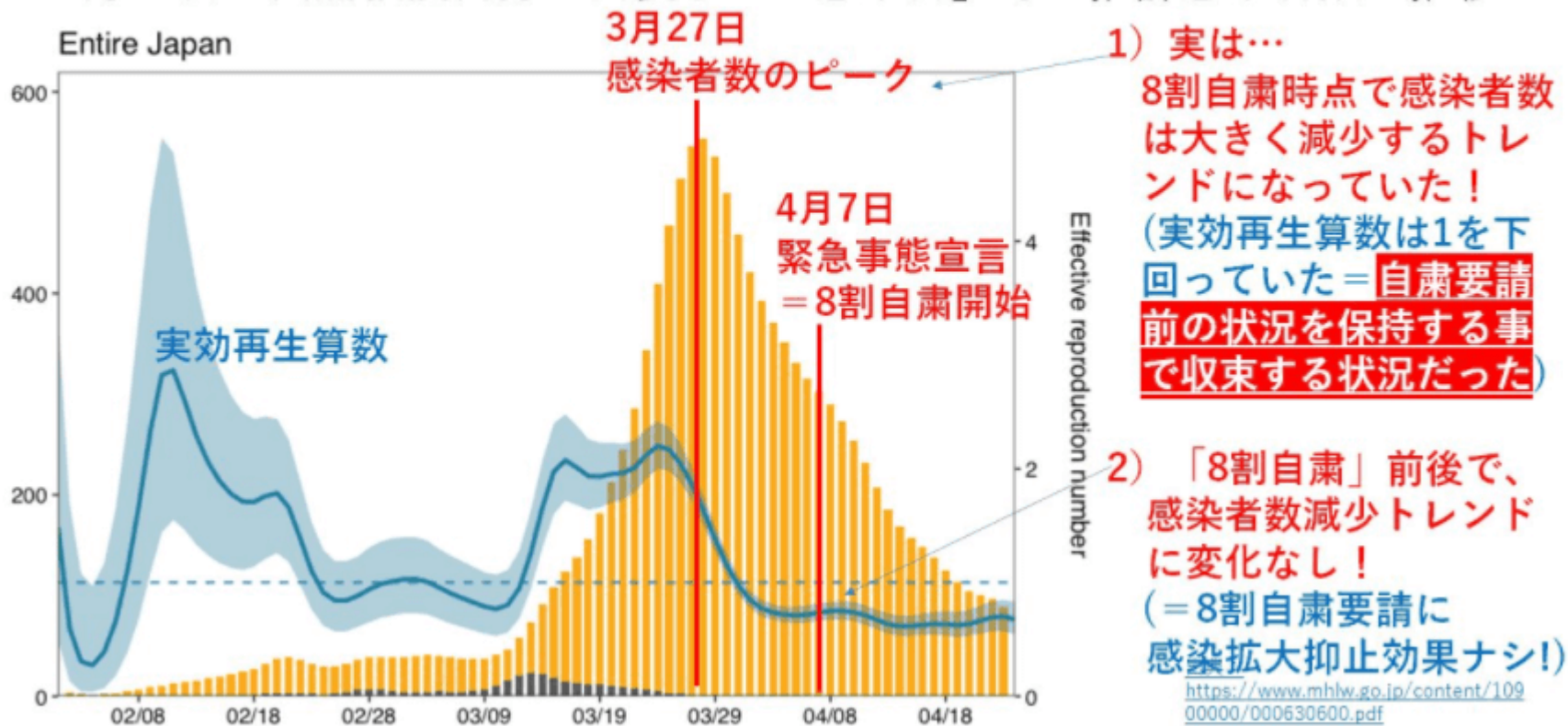
老眼に鞭打っても読めなかったのが拡大してみました。



周囲の誰が入れ知恵をしたんでしょうかね～？  
1年以上前の京大藤井教授が西浦博先生を批判  
した第9報(2020.5.28)を思い出しました。

事後検証結果 = 今回の8割自粛は無駄かつ不要だった疑義濃厚

5月12日に西浦教授自身が公表した「感染日」毎の推計感染者数の推移



最近は大村 vs 吉村など場外乱闘が多いように思います。京都大学の藤井教授が西浦先生を実効再生産数データより批判、これに対して岩田健太郎先生が西浦先生を擁護と目まぐるしい展開です。次ページには私の算出した愛知県の実効再生産数を紹介します

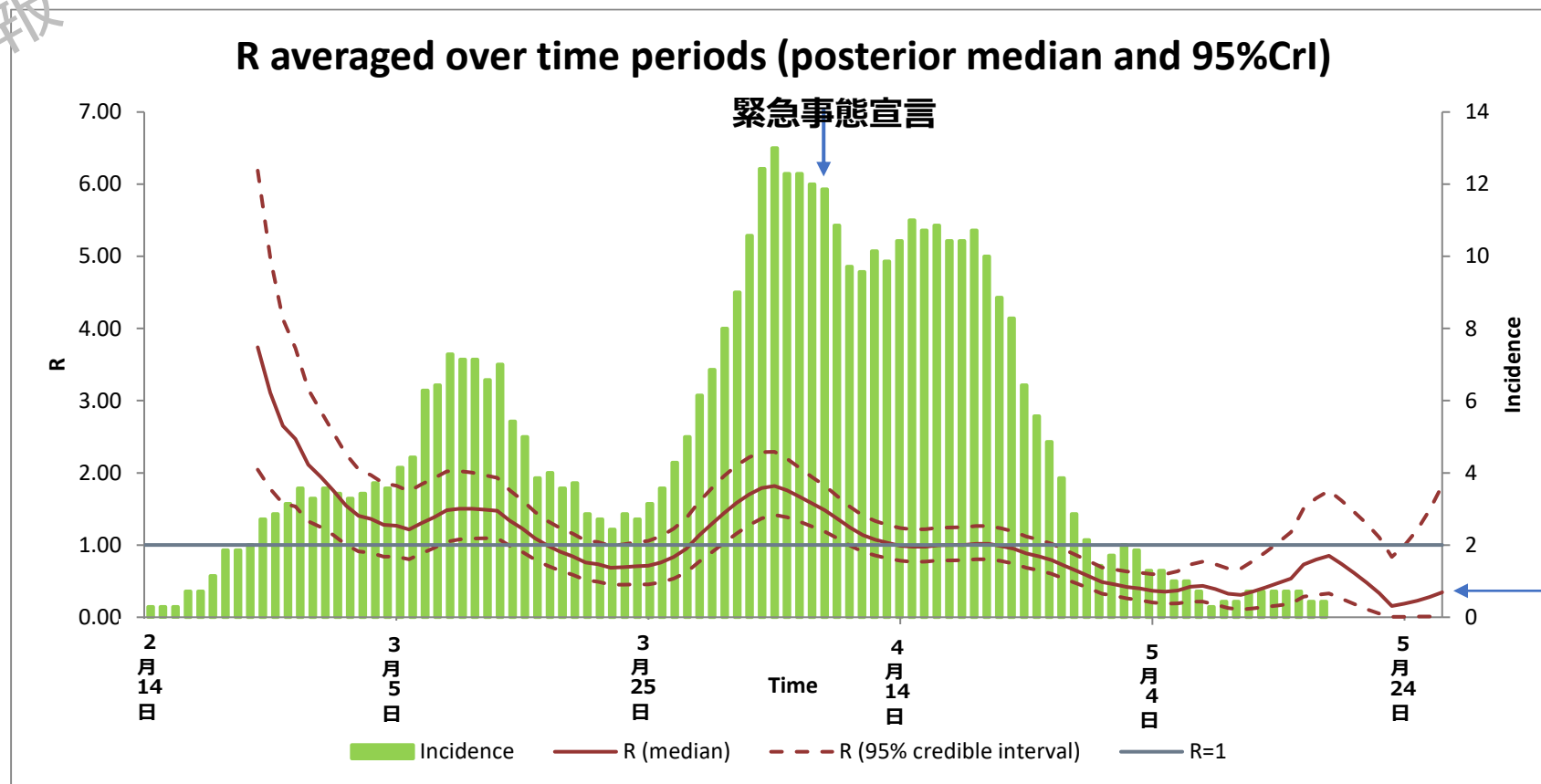
小池都知事の主張の真偽を確認する為に東京都の今年6月から9月の実効再生産数(推定感染日ベース)を私も計算してみました。東京都は発症日を現在も公表しています。因みに愛知県は昨年暮れに発症日の公表を放棄しました。計算方法は鈴木基先生と同様でCori 等の論文に拠ります(次ページ参照)。

山中伸弥教授が専門家会議にしぶれを切らせてそのホームページ上に大阪、京都、北海道の実効再生産数をアップされました（5.03）。その方法は「1. [Coriらの論文](#)からRtを計算するためのエクセルシートをダウンロード 2. [Biらの論文](#)からSerial intervalの平均を6.3日、標準偏差を4.2日と仮定 3. [大阪府、北海道、および京都市](#)のホームページから感染者数の推移をダウンロード 4. エクセルに感染者数を入力し、Rtを計算。」です。

山中教授の試算の問題点は Serial interval（Primary case の発症日から Secondary case の発症日までの日数）を深圳のデータに依存していること、山中教授の試算は診断日に基づいていることかと思いました。

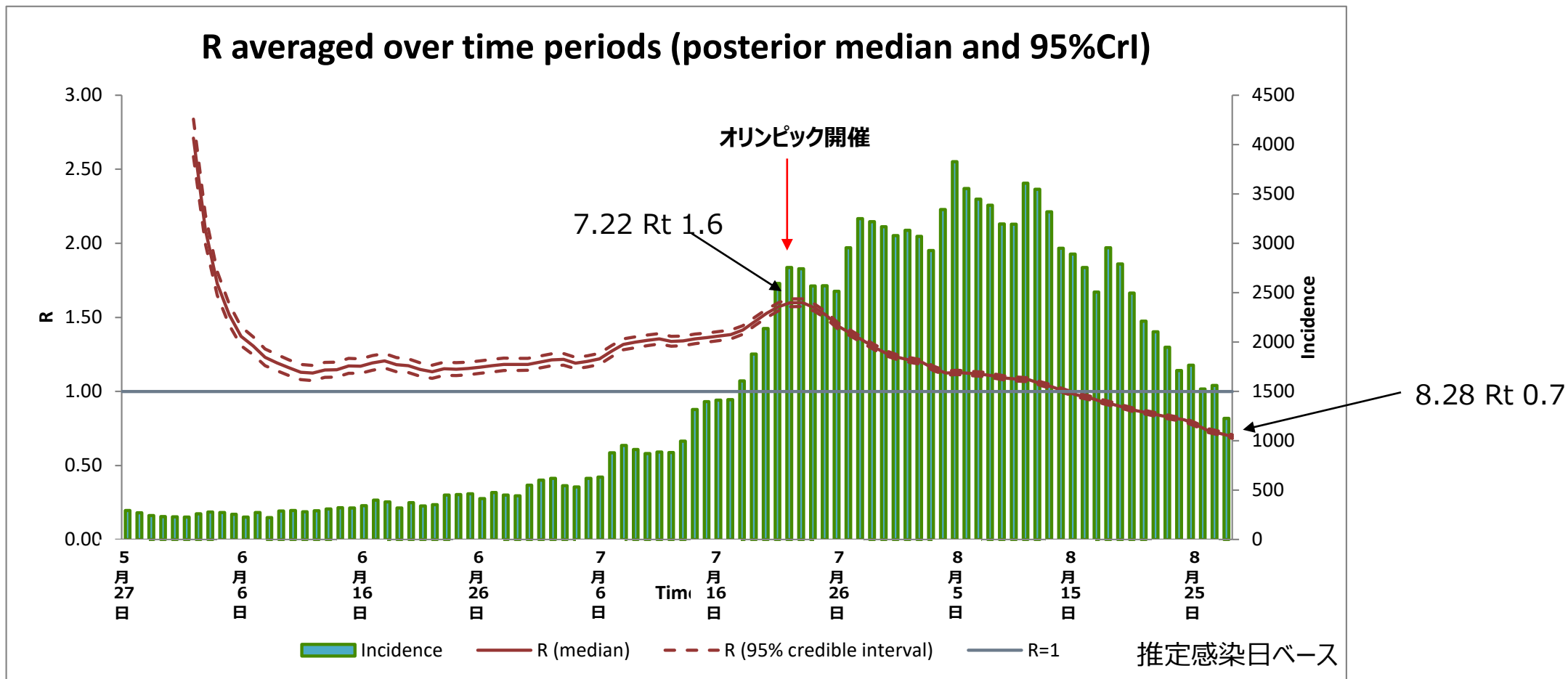
そこで、私は先ず Serial interval を愛知県の4/30までの Primary-Secondary が確認できる276例で Serial interval を計算、平均5.7日、標準偏差4.3日と算出（第6報 5/7）、次に7days moving average の発症日を Cori らの論文のエクセルシートに投入した結果が下図です。

第9報



緊急事態宣言は遅れたが、それなりに効果があったと思われる

最新の実効再生産数 0.34  
95%信頼限界 0.03-1.49



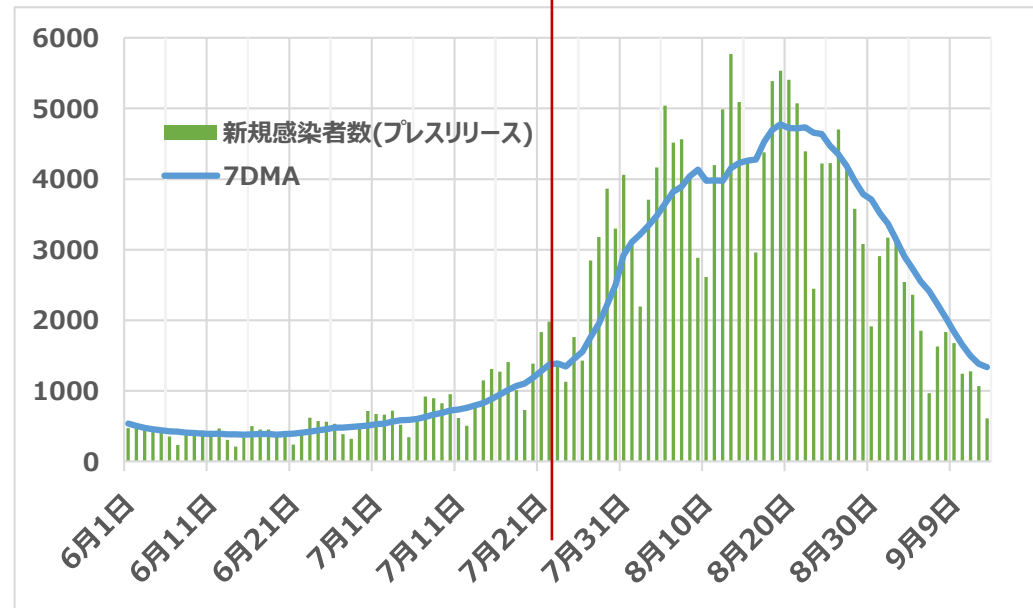
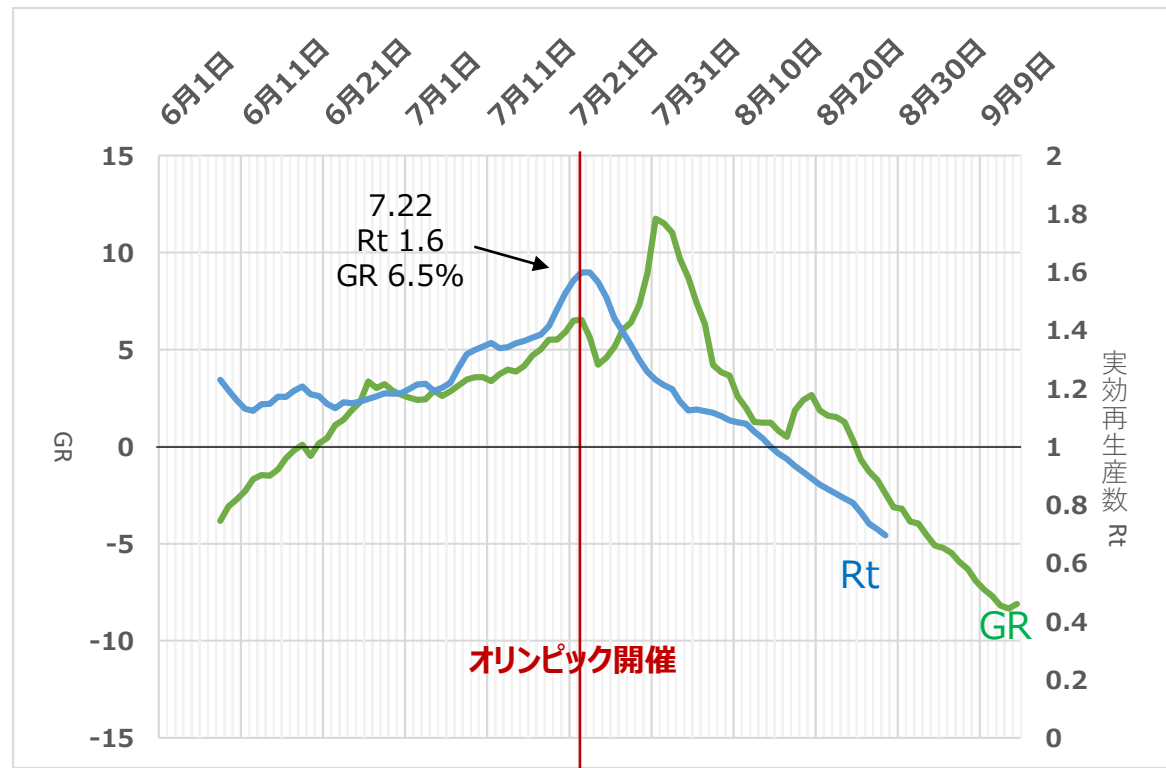
9月13日時点での東京都の6月から現在に至る推定感染日ベースでの実効再生産数(Rt)の算出結果です。第46回アドバイザリーボード提出の鈴木基先生の結果と概略一致します。



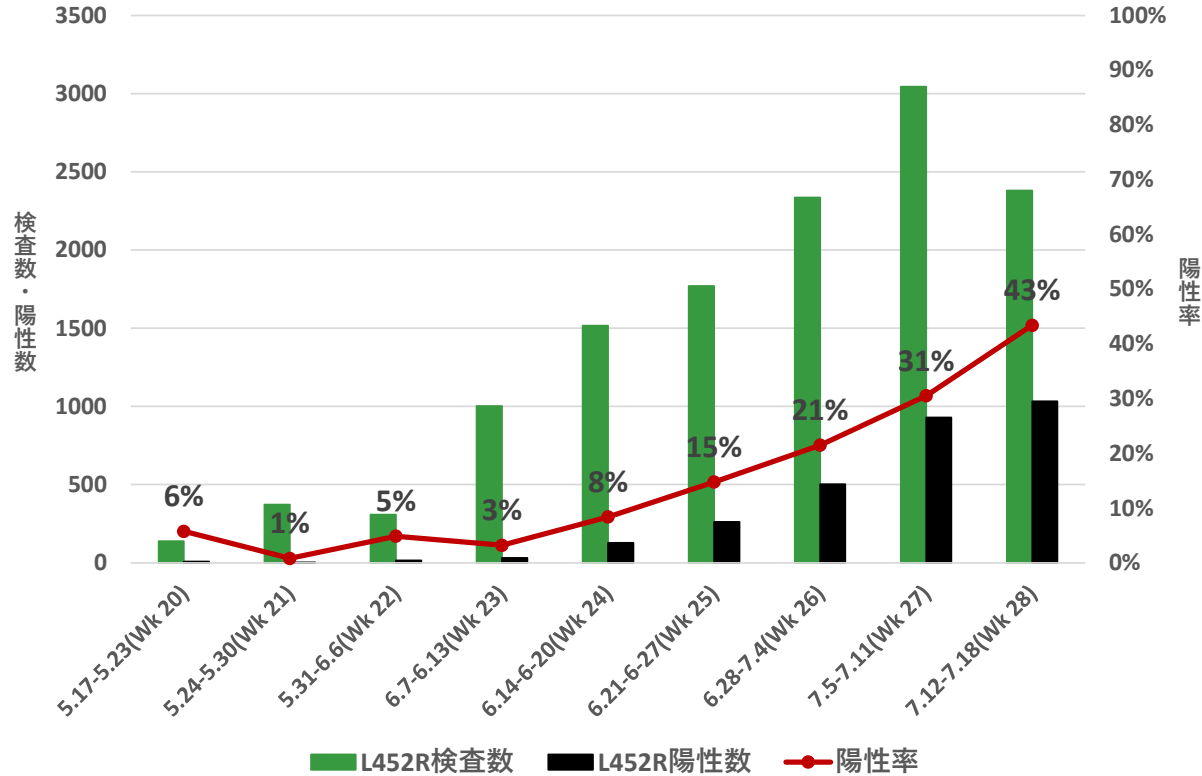
小池都知事が主張の根拠としたデータに間違いはないと考えられます。

実効再生産数は今回のCOVID-19パンデミックで一般に広く知られるようになりましたが、信頼に足る算出結果は10日前の数値です(推定感染日ベースにすると潜伏期間6日を足した16日前の数値)。今回の小池都知事の主張に使われたように後方視的な感染流行の解釈には威力を発揮し、実用面ではロックダウンの解除には有用ですが、ロックダウンの発動には適していません。実時間の感染動向を表し、ロックダウン発動に有用な指標としては Growth rate、倍加時間 Doubling every  $\Delta$  daysなどが適しています。

東京都の6月から現在に至る推定感染日ベースの実効再生産数(Rt)、Growth rate (GR)、及び新規感染者数の推移のまとめです。



## 東京都のデルタ株 L452R の推移



7月21日東京都福祉保健局「変異株スクリーニングの状況（第2273報）」

東京都の7月21日のGR The growth rate of COVID-19 | plus.maths.orgは6.5%。GRからは20日後の8月10日の新規感染者数(1週間移動平均)予測は7月21日の新規感染者数(1週間移動平均) 1278人の×3.6倍の**4600人**と予測される。

小池都知事がオリンピック開催前夜の7月21日時点に知り得た情報は

- ①デルタ株の占める頻度が前週に43%と増加途中
- ②20日後に東京都の新規感染者数(一週間移動平均)が4600人(実際は3979人)

→それでも東京オリンピックの開催と云う博打を打った背景には何があったのでしょうか？

小池都知事が記者会見でわざわざ実効再生産数を持ち出して反撃を開始したのは、今回の第5波で東京都で少なくとも8月以降に39人の自宅死亡を出した後ろめたさが背景にあるのでしょうかね~!?

なぜ東京五輪・パラリンピック強行開催と云う博打を打ったのか、その背景にあったのは何だったのか(政治的動機、金銭的動機など)? 将来に検証される事を望むばかりです。したたかな小池都知事に高邁な「五輪の理念」などある訳が無いので..